

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

事業所名 伊豆の国市児童発達支援センター

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1		児発の活動スペースの一部共有	
	2	職員の配置数は適切である	2	2			利用児童数における配置だけでなく、個別対応が必要な児童がでてきているため、一定時間の職員不足を感じる事もあるが、見守りの協力体制は取れている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4				
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3			放課後等デイサービスの会議に参加できない保育士等に対応が浸透していなかった感がある。会議の内容の説明等を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			4		本年は外部による第三者評価を行っていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		保護者のニーズを連絡帳の中でも確認している。	聞き取り調査や、相談室で得た情報などを共有させて頂く許可を取っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		開所時に作成した放デイ用のアセスメントを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			特に長期休みの計画については時間をかけている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	1	3		季節ごとの余暇活動などに配慮を行っている	利用日がそれぞれの児童で異なっている為同じ仲間プログラムに参加が困難な時がある。その為～週間のような形で行っていく
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1		平日と長期休暇の時はプログラム設定を大きく変えている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1		余暇活動は時間帯で個別と集団活動を分けて行っている。	来所時の様子で変更を行っていく。明らかに下校時の様子に気になる事がある時は教員に確認している。また、集団の作り方が偏らないように児童の様子を見て計画をたてていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1			活動終了時に反省と翌日の確認をおこなうが、それを徹底して行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1		支援記録は週末回覧を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4					
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			支援級の教員と情報の共有は行えている。通常級教員とは一部、支援会議などで関係を築いている	学校側からトラブル発生時の対応について説明を受ける時間が限られている為、後手にまわらないように、適切に調整したい	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている						利用児に該当者はいないが、服薬している児童がいる為、受信日程や処方されている薬を確認して行く
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	1			なのはな相談室と連携して、情報の共有を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4					H27年度開所で、対応件数は1件のみである。移行支援会議に参加をしている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2				来年度は、児童発達支援でコンサルテーションの申込を行っている。そこでの助言を共有していきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1	3			共通に遊べるグラウンドなどでの交流を検討していきたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3				センター長が出席しているが、職員に周知されていない。職員会議等でどのようなことおこなっているか報告などをしていただく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				連絡帳を活用している また、お迎え時に行っている	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3				個別に面談等をとって、ペアトレの支援を行うこともあるが、仕事を持つ保護者に個別支援計画の説明の時間を取ることも苦勞することもあり、	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4					
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	1		夏休みに行事設定を2回に分けて行ったが、連携するという状況に至っていない	保護者同士が連携が取れる行事を、来年も長期休みに計画していく。ざっくばらんに話しあえる設定を行うようにしていきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4					
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4				毎月、お便りの発行をおこなっている。	
	35	個人情報に十分注意している	4					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4				年に一度、御祭りを開催し地域のこども会などにボランティアを募っている	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			火災の訓練・防災の訓練・防犯の訓練を行っているが、保護者に周知されていなかった。お便りなどで、感想などを載せている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1		保護者に説明を行い記載を開始している
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			該当児なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3		1	作成はされているが、内容を周知する努力が足りなかった。特にパート職員に伝わっていない事があり、翌日の打ち合わせで記載内容を発表する事を徹底する